

# 幸田町と長崎・島原市

一九七(昭和四二)年に米国から日本に贈られた「青い目の人形」のうち、幸田町と長崎県島原市に現存する二体が「姉妹」となる「親善人形対面式」が十七日、同町幸田小学校であった。

## 青い目の人形対面 友好誓う



姉妹交流 親善人形対面式

親善人形を前に笑顔を見せる幸田町と島原市の関係者ら。幸田小学校で

(朝国聡吾)

人形は、幸田小にある「グレース・エッサ」と、島原市立第一小学校にある「リトル・メリー」。

両市町は、江戸時代に幸田町周辺を治めた深溝松平家の子孫が島原藩主となった縁で、二〇一四年に友好協定を締結。交流を進める中で、互いに人形が現存することが分かり、二体を姉妹にしようとして検討していた。

式には大須賀一誠町長や古川隆二郎島原市長、幸田小の児童ら約八百人が出席。児童代表が「さみしくなった

知立中日文化センター(知立市長藤町大山・ギャラリーエビタ知立店)で開催する。4月から始まる講座と一日講座を紹介する。受講料などは税別で、教材費など別に必要な講座もある。



「親心理学初級」第1・3月曜前10・30、正午。斎藤忍、メンタルトレーニング、4カ月分8000円。【親心理学初級】第1・3月曜前10・30、正午。斎藤忍、メンタルトレーニング、4カ月分8000円。

### 学びの森から

知立中日文化センターだより

## 一色えびせん売り込め

### 愛教大生 授業でPR案発表

愛知教育大(刈谷)の学生が十七日、コンサルタント業務を通じて課題を解決する力を養う授業の一環で、同市一色地区では、西尾市名産の「一色えびせんべい」のPR方法を発表し、西尾市内の三十六

せんべいは、エビを

主原料にジャガイモの

でんぷんや塩などを加

えた保存の利くお菓子

で、同市一色地区では

九十年以上の歴史があ

る。三河一色えびせん

べい工業組合には現

せんべいを刈谷で  
えびせんべい製造  
一色えびせんべい  
愛知教育大生による  
三河一色えびせん  
べい工業組合市



社が加盟している。二年生三千二人が半年かけ、えびせんべいの特長や問題点などを

ら互いに手紙を書きましよう」などと友好の誓いの言葉を述べた。島原第一小の児童からのメッセージも録音で披露された。二体の人形は十八日から三月十二日まで、幸田町郷土資料館で展示される。

青い目の人形は、親日家の米国人宣教師シドニー・ギョリックの発案で約一万二千体が日本に贈られた。太平洋戦争中に敵国の人形だとして多くが処分されたが、全国に三百体以上が現存する。

研究。この日は八チームに分かれ、十四分間ずつ、消費拡大のために考えた企画を披露した。語呂合わせも踏まえ「一色産の意識が足りないのでは」との仮説を立てたチームは「パッケージを単色(一色)にして、産地を印象づけては」と提案。ほかにも各店の一押し

「ینگ、脳科学などを合わせた独自のプログラムで、子どもの可能性と笑顔を目指す。3カ月分1万2000円。【ラッピングsoho】第2金曜前10・30、後0・30。山田てるみほか。暮らしの思い出を豊かに彩るラッピングの魅力と習わしを伝える。資格取得も。6カ月分1万8000円。【アロハハンドメイド初級】第2水曜後1・30、3。服部さおり。むくみや便秘、肌荒れなどをさまざまな不調改善に効果がある自然療法を学ぶ。6回分1万8000円。【ほじめてのパントマイム】第2・4金曜後6・30、8。LONTOほか。定番の壁や綱引き、ロボット

(土屋晴康)